

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表

(省令で定める基準単位数を満たす単位分科目のみ抜粋)

学校名：学校法人三幸学園 札幌スポーツ&メディカル専門学校

学科名：スポーツ保育科

授業科目名	単位数
からだの仕組み I	4
幼児体育	2
音楽 I	2
幼児の心理学	2
合計	10

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	からだの仕組み I		
必修選択	必修	(学則表記)	からだの仕組み I		
開講				単位数	時間数
年次	1 年次	学科	スポーツ保育科	4	60
使用教材	ぜんぶわかる人体解剖図		出版社	成美堂出版	

科目の基礎情報②

授業のねらい	骨と関節、筋についての基本的な構造、運動やスポーツ活動時におけるからだの生理学的な変化や適応現象について学び、保育士・幼稚園教諭・幼児体育指導員となった際にも活用出来るように身につける				
到達目標	骨、関節、筋について基本的な構成が説明できる。 運動やスポーツ活動時におけるからだの生理学的な変化や適応現象について説明できる。				
評価基準	テスト/レポート：60% 授業態度：20% 提出物：20%				
認定条件	出席が総時間数の 3 分の 2 以上ある者 成績評価が 2 以上の者				
関連資格	特になし				
関連科目	からだの仕組み II				
備考	原則この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	小本 竜也	実務経験	○		
実務内容	理学療法士、スポーツトレーナーとして、ジュニア世代からシニア世代まで幅広い年齢層を対象に理学療法および運動指導を行っている。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業の必要性・目的を説明
2	からだの大枠構造	からだの区分用語・方向用語・骨格概要・内臓の位置関係
3	骨	骨の働き・構造
4	骨	関節の形態と仕組み
5	筋肉	主要な筋肉名、筋の種類、筋肉の構造

6	筋肉	筋肉の構造、主働筋と拮抗筋による関節動作
7	神経	中枢神経・末梢神経、神経伝達の仕組み
8	神経	脳神経・脊髄神経の種類
9	神経	力の調節方法、反射の仕組み
10	呼吸	呼吸器系の概要、呼吸の仕組み
11	呼吸	ガス交換の仕組み
12	心臓	心臓の構造、拍動の仕組み
13	心臓	拍動の仕組み（神経）、拍動の調節
14	まとめ	まとめ
15	まとめ	まとめ
16	循環器系	血管構造、筋ポンプ作用、動脈ポンプ作用
17	循環器系	血液の成分、血漿成分の働き、血球成分の働き
18	循環器系	免疫（抗体）の作られ方、体液の分類
19	循環器系	リンパ管とリンパ節、脾臓の働き
20	消化	摂取物の消化・吸収経路、3 大栄養素、5 大栄養素
21	消化	口腔の構造、食道・胃・小腸・大腸の構造と働き
22	肝臓・胆嚢・すい臓	肝臓・胆嚢・すい臓の構造と働き
23	腎臓・膀胱	腎臓の構造と働き、膀胱の構造と尿の排出
24	脳	脳の構造

25	脳	からだを動かす際に関連する部位と役割
26	内分泌	主な内分泌器官とホルモン
27	内分泌	ホルモンによる体調・栄養素のコントロール
28	耳	耳の構造と平衡感覚
29	まとめ	まとめ
30	まとめ	まとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	実技	科目名	幼児体育		
必修選択	選択	(学則表記)	幼児体育		
開講				単位数	時間数
年次	1 年次	学科	スポーツ保育科	2	60
使用教材	なし		出版社	なし	

科目の基礎情報②

授業のねらい	子どもへの保育、指導に一番必要といっても過言ではない「気づき」や「視点」の基本となる自身の考えを確立するとともに具体的なステップを工夫し、設定できる力をつける。				
到達目標	運動遊びや、体育指導が安全、且つ楽しく進められ、子どもたちがやる気になる環境設定や、言葉がけが出来る保育者となる。鉄棒、跳び箱、マット運動における補助法が確実にできる。				
評価基準	テスト/レポート：60% 授業態度：20% 提出物：20%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	こども運動指導者検定（2級）				
関連科目	からだづくり運動Ⅱ				
備考	原則この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	高橋 宣義	実務経験	○		
実務内容	幼児体育指導				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション・ ゲーム遊び・集団行動紹介	授業内容把握、ゲームや集団行動を知る
2	集団行動練習・集団行動実践・リズム体操	集団行動・リズム体操の理解を深める
3	幼児体育指導の内容を理解する	幼児体育模擬授業
4	移動運動・基本運動の実践	多様な動きを習得・実践する
5	マット運動①	マットに慣れ親しむ遊び・前転・開脚前転・補助法
6	マット運動②	倒立・側転・補助法

7	マット運動③・平均台	マット運動連続技・平均台
8	鉄棒①	鉄棒の導入の仕方、補助法
9	鉄棒②	前回り降り・補助法
10	鉄棒③	逆上がり・補助法
11	縄跳び①	縄跳び導入・なわ遊び
12	縄跳び②	前跳び・前あや跳び・補助法
13	縄跳び③	長なわ導入・補助法
14	前期のまとめ	前期実施した内容を再確認する
15	実技まとめ	実技まとめ
16	ボール運動①	大・中ボールを操作する
17	ボール運動②	小ボールを操作する・二人組のボール運動
18	ボール運動③	ゲームの運営
19	跳び箱①	開脚跳び・補助法
20	跳び箱②	台上前転・補助法
21	開脚跳び・マット運動指導実践練習	実践練習
22	開脚跳び指導実践①	学生模擬指導
23	開脚跳び指導実践②	学生模擬指導
24	マット運動指導実践①	学生模擬指導
25	マット運動指導実践②	学生模擬指導

26	保育現場体験実習（模擬指導）①	学生模擬指導
27	保育現場体験実習（模擬指導）②	学生模擬指導
28	保育現場体験実習（模擬指導）の感想 ルールある運動遊び（鬼遊び）	模擬指導の振り返り・各種鬼ごっこ
29	サーキット遊び	サーキット遊び実施
30	実技まとめ	実技まとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	実技	科目名	音楽 I		
必修選択	選択	(学則表記)	音楽 I		
開講				単位数	時間数
年次	1 年次	学科	スポーツ保育科	2	60
使用教材	ピアノ教本・声楽教本・音楽(理論)		出版社	近畿大学九州短期大学	

科目の基礎情報②

授業のねらい	保育現場に必要な音楽の基礎的能力を身につけ、理論と実践の両方を理解し習得する。				
到達目標	ピアノを弾く上での基礎を身につけ、音程を正確に歌うことができる。 楽譜の仕組みがわかり、読むことができるようになる。 「生活の歌」「季節の歌」の伴奏・弾き歌いができる。				
評価基準	テスト/レポート：60% 授業態度：20% 提出物：20%				
認定条件	出席が総時間数の 3 分の 2 以上ある者 成績評価が 2 以上の者				
関連資格	保育士・幼稚園教諭二種免許状				
関連科目	音楽 II・音楽 III				
備考	原則この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	西谷 麻里子	実務経験	○		
実務内容	中高音楽教員免許。札幌を中心に演奏活動を行う。自身でピアノ教室を主宰し、保育士養成施設、短期大学での非常勤講師も務める。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	ピアノを弾くための基礎知識①	ピアノの座り方・正しい手の形・発声の姿勢。楽譜のしくみ①
2	ピアノを弾くための基礎知識②	様々な拍子・リズムを理解し、正しい指づかいで弾く。楽譜のしくみ②
3	ピアノを弾くための基礎知識③	和音・コードネーム。楽譜のしくみ③
4	コードネームによる伴奏法	ハ長調音階・主要三和音。楽譜のしくみ④
5	生活の歌①-1	歌唱・片手奏・左手のコード奏。楽譜のしくみ⑤

6	生活の歌①-2	歌唱・両手奏・左手のコード奏・弾き歌い。
7	生活の歌①-3	生活の歌①確認。季節の歌（4月～5月）歌唱。
8	生活の歌②-1	歌唱・片手奏・左手のコード奏。楽譜のしくみ⑥
9	生活の歌②-2	歌唱・両手奏・左手のコード奏・弾き歌い。
10	生活の歌②-3	生活の歌②確認。季節の歌（6月～7月）歌唱。
11	コードネームによる伴奏法	ト長調音階・主要三和音。楽譜のしくみ⑦
12	生活の歌③-1	歌唱・片手奏・左手のコード奏。楽譜のしくみ⑧
13	生活の歌③-2	歌唱・両手奏・左手のコード奏・弾き歌い。
14	生活の歌③-3	生活の歌③確認。季節の歌（8月～9月）歌唱。
15	まとめ	前期まとめ
16	コードネームによる伴奏法	ヘ長調音階・主要三和音。楽譜のしくみ⑨
17	季節の歌①-1	歌唱・片手奏・左手のコード奏。楽譜のしくみ⑩
18	季節の歌①-2	歌唱・両手奏・左手のコード奏・弾き歌い。
19	季節の歌①-3	季節の歌①確認。季節の歌（10月～11月）歌唱。
20	コードネームによる伴奏法	ニ長調の音階・主要三和音。楽譜のしくみ⑪
21	季節の歌②-1	歌唱・片手奏・左手のコード奏。楽譜のしくみ⑫
22	季節の歌②-2	歌唱・両手奏・左手のコード奏・弾き歌い。
23	季節の歌②-3	季節の歌②確認。季節の歌（12月～1月）歌唱。
24	コードネームによる伴奏法	ハ長調・ト長調・ヘ長調・ニ長調

25	季節の歌③-1	歌唱・片手奏・左手のコード奏。楽譜のしくみ⑬
26	季節の歌③-2	歌唱・両手奏・左手のコード奏・弾き歌い。
27	季節の歌③-3	季節の歌③確認。季節の歌（2月～3月）歌唱。
28	まとめ①	振り返り
29	まとめ②	振り返り
30	まとめ③	総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	幼児の心理学		
必修選択	選択	(学則表記)	幼児の心理学		
開講				単位数	時間数
年次	1 年次	学科	スポーツ保育科	2	30
使用教材	実践に活かす保育の心理学		出版社	(株) ミネルヴァ書房	

科目の基礎情報②

授業のねらい	発達段階に合わせた効果的な教育活動のために必要な知識と実践方法を学び、どのように実践にいかすかを考える。				
到達目標	保育・教育実践にかかわる心理学の知識を習得し、説明することができる。 乳幼児期の発達段階について理解し、その特徴や課題を説明することができる。 乳幼児の遊びや学びについて理解し、説明することができる。 乳幼児の発達と周囲のかかわりの関係について理解する。				
評価基準	テスト/レポート：60% 授業態度：20% 提出物：20%				
認定条件	出席が総時間数の 3 分の 2 以上ある者 成績評価が 2 以上の者				
関連資格	保育士・幼稚園教諭二種免許状				
関連科目	保育の心理学				
備考	原則この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	今田 章子	実務経験	○		
実務内容	修士（教育学）、博士課程単位修得後退学。中学校・高等学校教員免許（外国語）。小田原短期大学助教。 北海道内の現役教職員との授業や教育の研究会に参加すると共に、研究者として各種学会での発表をしている。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	ガイダンス	本講義の内容、評価の仕方を知り、何故発達を学ぶのかについて考える。
2	発達を学ぶ意義	発達の定義、心理学の研究手法、「幼児の心理学」とは何かについて理解する。
3	子どもの発達と環境	「遺伝」と「環境」が発達に与える影響とその考え方の変遷、子どもを取り巻く環境について理解する。
4	発達理論と子ども観・保育観	子どもとは何か、様々な発達理論と発達観について理解する。
5	身体と運動機能の発育・発達	身体の発育・発達、運動機能の発達について理解する。

6	発達を支えるアタッチメント (1)	「アタッチメント」とは何かについて理解する。
7	発達を支えるアタッチメント (2)	「アタッチメント」の個人差、保育への「アタッチメント」の影響と保育者の関わりについて理解する。
8	自己と感情・情動の発達 (1)	一次的感情、二次的感情、自己意識について理解する。
9	自己と感情・情動の発達 (2)	「情動調整」とその発達について理解する。
10	社会性の発達 (1)	社会性とは何か、選好注視法、二項関係、三項関係、「共同注意」について理解する。
11	社会性の発達 (2)	他者を理解するとはどういうことか、保育の中で育つ社会性について理解する。
12	認知の発達 (1)	認知とは何か、ピアジェの発達理論について理解する。
13	認知の発達 (2)	認知発達について理解する。
14	言語の発達	言語の機能、言語の発達について理解する。
15	前期のまとめ	前期の振り返り
16	発達障害と発達 (1)	発達障害の定義、様々な発達障害、「記憶」について理解する。
17	発達障害と発達 (2)	「気になる子ども」、早期発見・早期支援の重要性について理解する。
18	虐待から考える発達 (1)	虐待とは何か、「マルトリートメント」とは何か、虐待の発達等への影響について理解する。
19	虐待から考える発達 (2)	虐待の世代間連鎖、子ども支援・保護者支援・早期発見の重要性や方法について理解する。
20	保育にいかす学習理論 (1)	様々な「学習理論」について理解する。
21	保育にいかす学習理論 (2)	「学習理論」をどのように保育にいかすかについて考える。
22	遊びの発達 (1)	子どもにとっての遊びとはどういうものか、遊びの分類について理解する。
23	遊びの発達 (2)	遊びの発達について理解する。
24	乳幼児期の学びの過程と特性 (1)	乳幼児期の学びとはどういうものか、エリクソンのライフサイクル理論について理解する。

25	乳幼児期の学びの過程と特性 (2)	乳幼児期の発達について、エリクソンのライフサイクル理論から理解する。
26	乳幼児期の学びを支える保育 (1)	幼児期に「育みたい資質・能力」、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」、小学校との連携について理解する。
27	乳幼児期の学びを支える保育 (2)	乳幼児期の学びを支える保育、保護者支援について理解する。
28	後期のまとめ	後期の振り返り
29	まとめと振り返り(1)	一年間のまとめ、レポート
30	まとめと振り返り(2)	総まとめの確認